

北原小学校改築推進委員会 要 点 記 錄

第 5 回

開催日時		令和7年7月30日(水) 午後6時30分～8時00分
開催場所		北原小学校 2階会議室
出席者	委員	岡陽子、内藤正純、小林てる子、笠原敏、澤田石佳代、粉川潔、新谷順子、中村陸男、鈴木淳、辻健一 保積武範、原太洋 (敬称略、名簿順)
	事務局	学校地域連携係、子ども教育施設整備係
会議次第		【議事】 1 北原小学校校舎等整備基本設計の検討について 2 その他

第5回 北原小学校改築推進委員会 会議要旨

1 開会

委員長

定刻となつたため、これより第5回北原小学校改築推進委員会を開会する。

本日、傍聴希望者はいない。

2 議事

委員長

それでは、本日の議事について、子ども教育施設課長より説明を求める。

■議事1 「北原小学校校舎等整備基本設計の検討について」

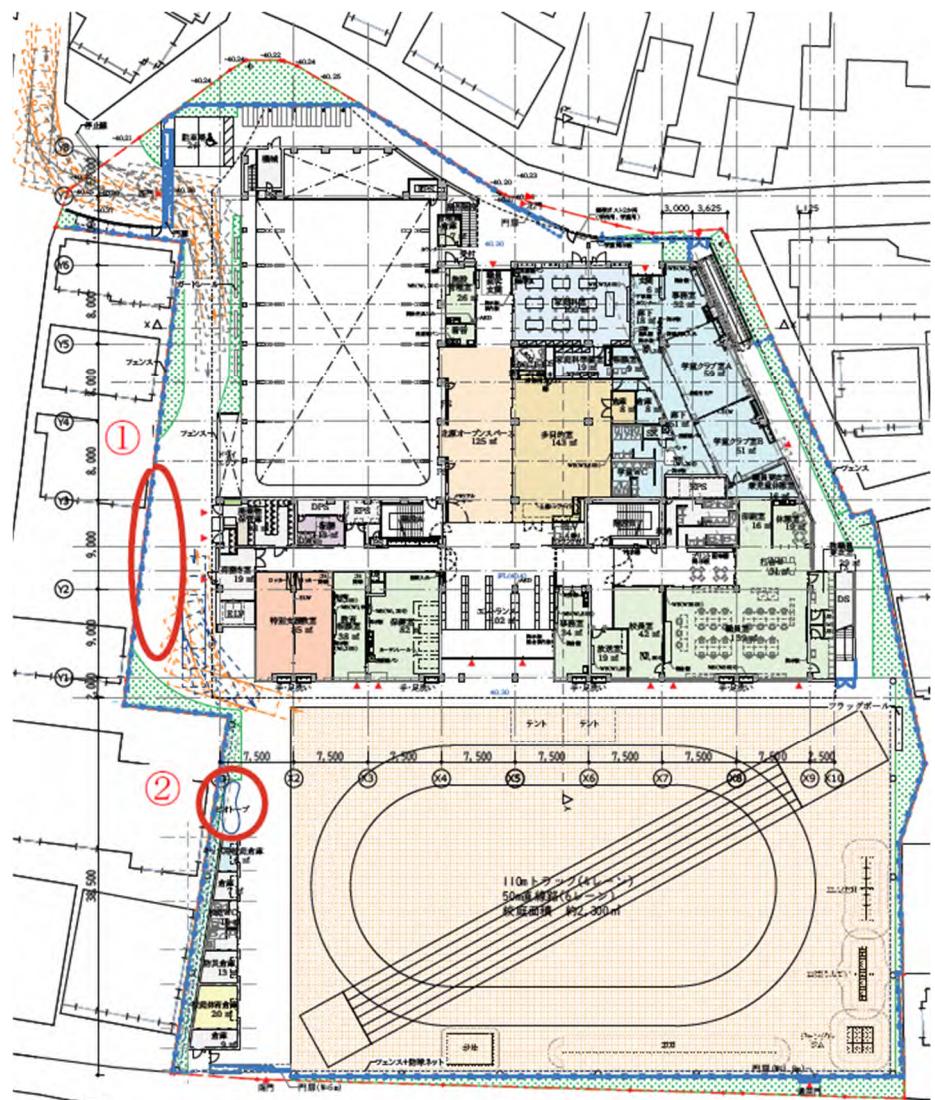
子ども教育施設課長

北原小学校の新校舎の設計について主な安全対策の紹介、校舎解体工事、新築工事に伴う既存樹木及び新植樹木について説明する。

○資料1 北原小学校校舎等整備基本設計の検討について

子ども教育施設課長

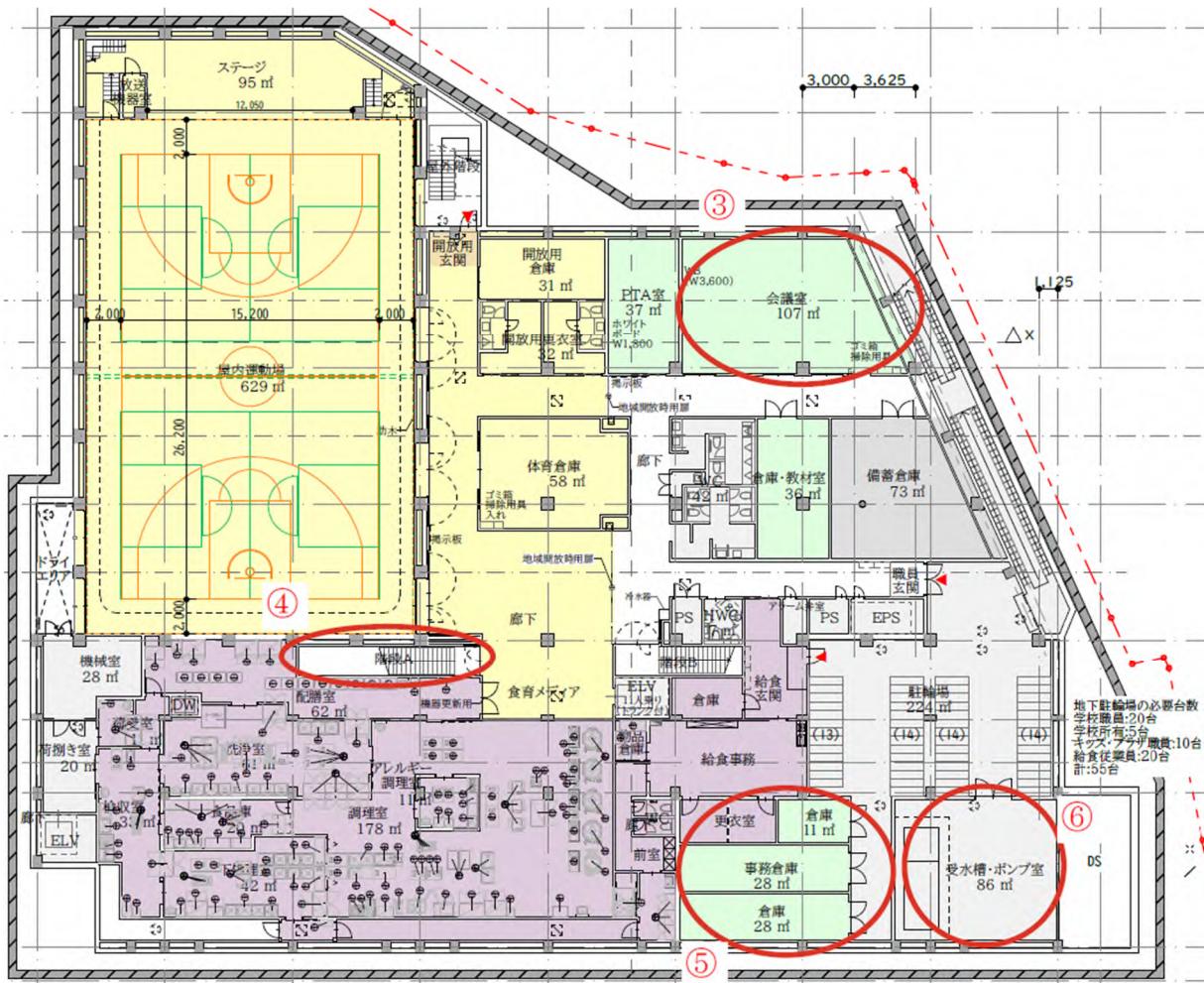
前回、5月の改築推進委員会にてご覧いただいた設計図面から変更している主な点について赤字で示している。そちらの内容を中心に説明する。



1階配置図

①について、車両動線を広げるため、受水槽を地下へ移設した。それにより給食の運搬車両などが通行するエリアを広げることができ、より安全に使用できる環境を整えることができている。

②について、ビオトープを整備した。中野区では生物多様性を保全推進するなど環境教育を進めていくという考えがある。そのため、新校舎にはビオトープを設置することとしており、今回この場所での整備ということで提案している。



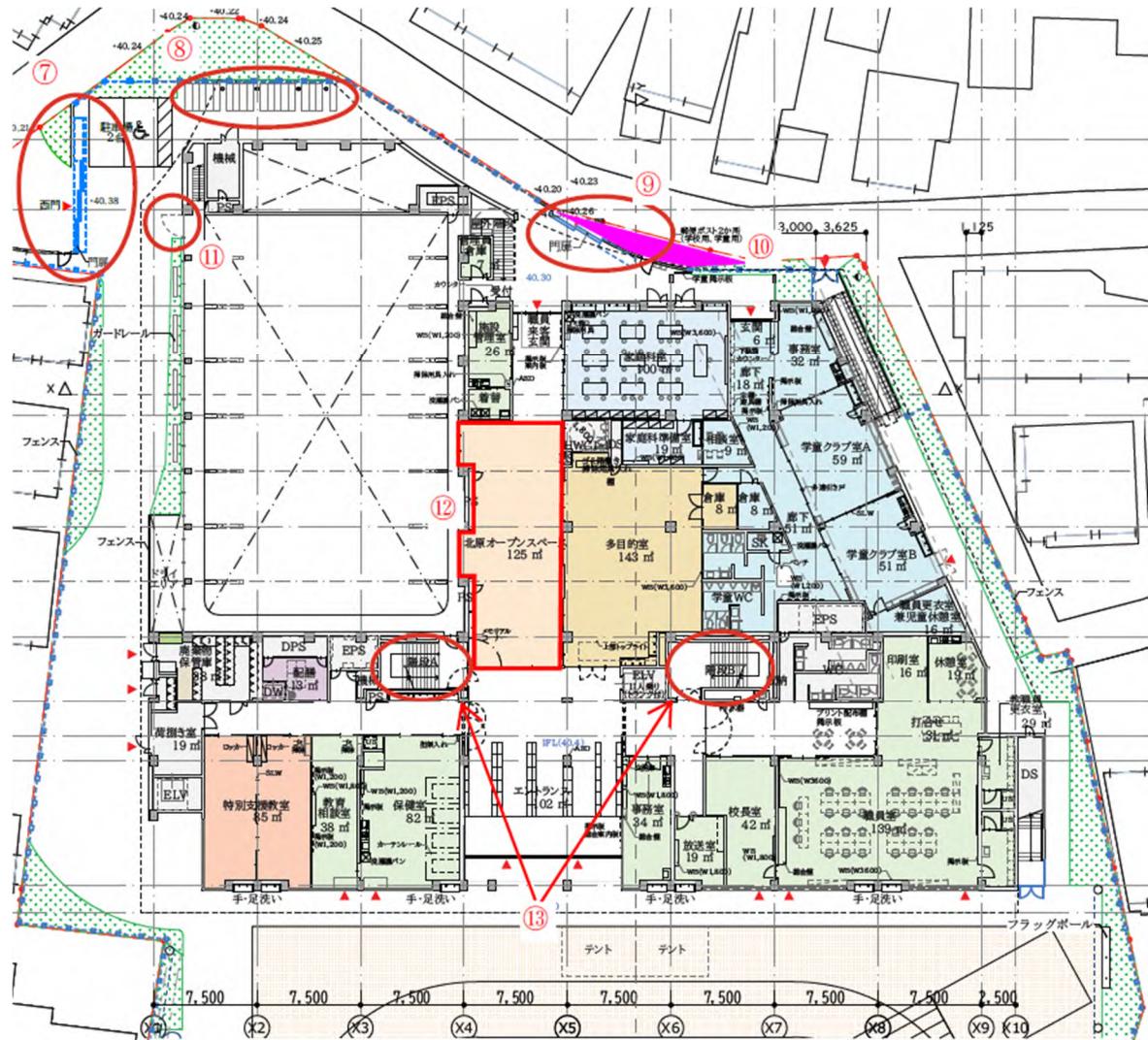
地下1階平面図

地下について、先に⑤・⑥の説明をする。

⑤・⑥について、倉庫の追加配置及び受水槽・ポンプ室の追加配置をした。前回までは空間として活用していなかったエリアだが、新たに倉庫として整備をした。また、先ほど紹介した地上部に設置していた受水槽をこちらに移設した。

③について、倉庫の追加配置に伴い、会議室を幅広に整備した。地下に倉庫を新たに追加配置したことにより、元々ここにあった倉庫のスペースを取りやめ、代わりに大きな会議室を整備することができた。

④について、安全を配慮した屋内運動場への動線整理をした。前回の設計図面では、屋内運動場へつながる階段部分が死角になってしまふことや仮に屋内運動場の鍵が閉まっていた際の階段利用に懸念などもあったことから、今回新たな設計案として、階段を降りた後は、広い屋内運動場ロビーに子どもたちが集まれ、そこから安全に屋内運動場に入れるよう階段周りの動線を整理した。



1階平面図

⑦について、門扉の配置変更（西門）を行った。前回は東西方向に設置した門であったが、外構フェンスの具体的な検討の中で現状に近い南北方向に変更している。

⑧について、駐輪場の配置変更及び駐輪台数の増設をした。元々、家庭科室の北側に配置していた駐輪場を門扉の位置変更等に伴い、こちらの場所に変更の上、駐輪台数も増設した。

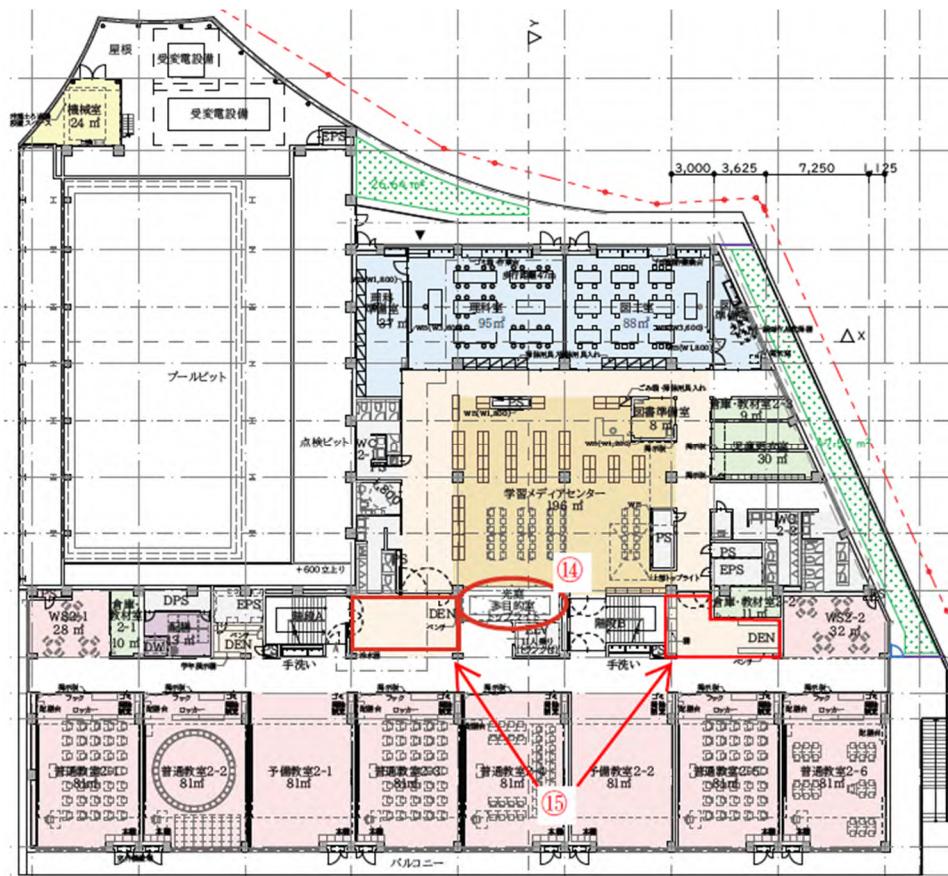
⑨について、門扉の配置変更（北門）を行った。外構フェンスの具体的検討の中で、門扉の配置を少しだけ変更している。

⑩について、溜まり部分を変更した。門扉の前を安全に利用できるよう溜まり部分を設けて整備していく。

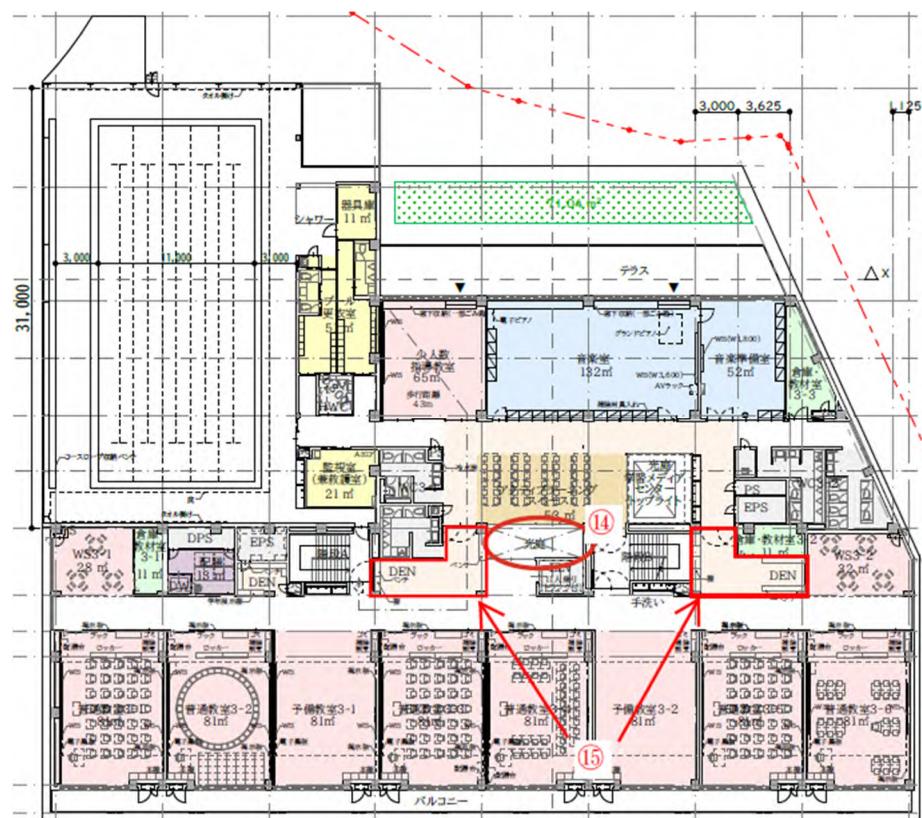
⑪について、避難時の外扉追加配置を行った。こちらは屋内運動場の2階通路部分（キャットウォーク）から緊急時等に直接外へ出ることができるよう扉を追加で配置した。

⑫について、多目的に利用可能な「北原オープンスペース」を整備した。こちらはエントランス前の空間で前回まではトイレ等の機能を配置していたが、機能と配置を整理したことにより、多目的に利用可能なオープンスペースをすっきりと整備することができた。なお、こちらのスペースからは体育館の様子も視認できるように整備をしていく予定。また、隣接する多目的室の扉を開放することによって、オープンスペース及び多目的室を一体的に活用できる大空間としても使用することができるようになる。

⑬について、動線を整理のうえ、2つのメイン階段を整備した。前回までは校舎内に三つの階段を整備していたが、子ども達の日常動線を改めて整理した上で、安全で使いやすい二つのメインの階段を学校の中心に整備することとした。



2階平面図

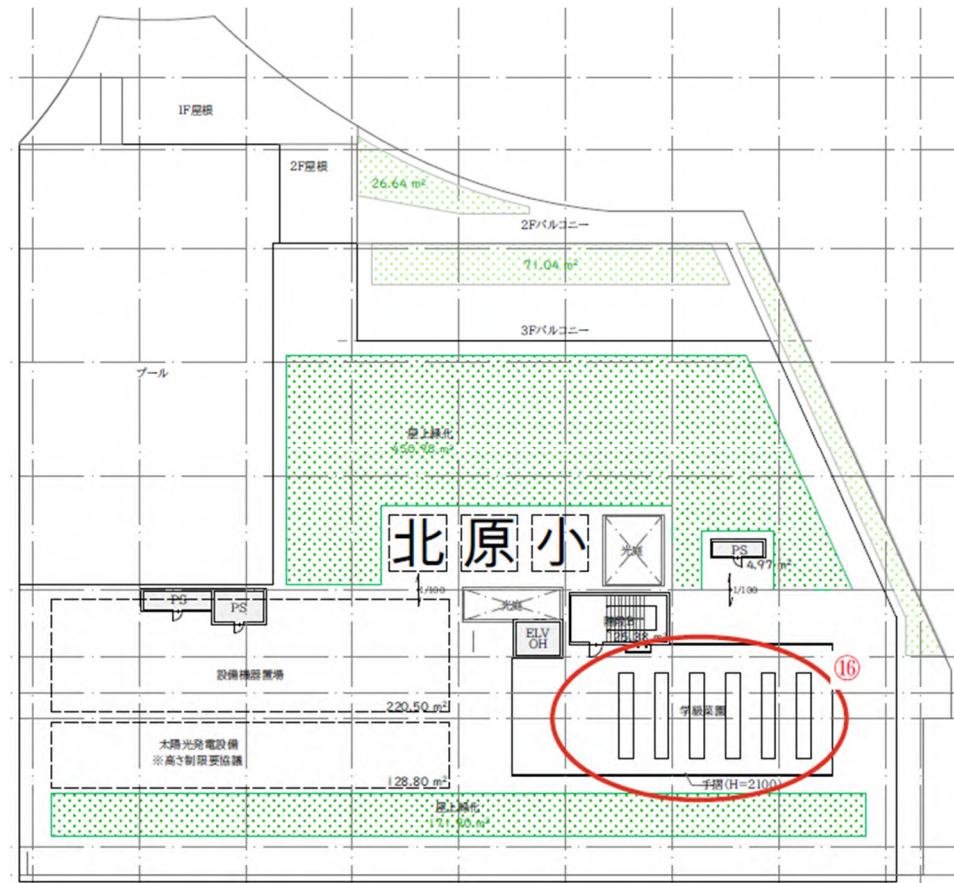


3階平面図

⑭について、校舎の中心に天然光が差し込むトップライトを整備した。校舎の中心に上部から天然光が差し込むように吹き抜けのエリア（トップライト）を整備した。

⑮について、子供達の交流スペース（D E N）を東西に整備した。三つあった階段を二つに集約できることによって生み出されたスペース等を子供達の交流できるスペースとして、普通教室のある2、3階の東西に、それぞれD E Nと呼ばれる居場所を整備することができた。

3階の平面図だが、こちらも2階同様に光の差し込む吹き抜けの空間であるとか、子供達の居場所スペースを新たに整備することができている。



R階屋根伏せ図

⑯について、屋上に学級菜園を整備している。

○資料2 新校舎整備における主な安全対策について 子ども教育施設課長

新校舎で対応している子供達への主な安全対策の紹介で先生方とも確認をし合いながらまとめたものになる。

校舎全般の部分を紹介する。No.1について、例えば2階以上に面した窓から児童が転落しないよう窓を全開にできない開口制限のストッパーなどを途中のところにつけている。また、窓ガラスが仮に割れても、破片が飛び散らない飛散防止フィルムをつけていたり、指挟み防止のストッパーをつける、校舎への侵入者対策のため、機械警備システムを導入する等、安全対策をとっている。その他、校門・校庭・教室等々、場所に応じて安全対策をまとめているので、読み取っていただきたい。

資料1・2の説明は以上である。

委員長

質問や意見はあるか。

委員

安全対策とプールについて、この夏もほとんどプールができなかつたが日除けのテント膜とはどういう形か。

子ども教育施設課長

日除けテント膜は、水面を覆うような形を想定している。今後、具体的な検討を進めていくところである。プール活動をされるときに外気温が例えれば38度だったものが30度に下がるかというと、そういうものではない。ただ、プールの水自体は直射日光がずっと当たり続けているか、プール膜が設置されているかでは水温の上昇具休は違つてくるものだと考えている。学校の現場でプールを実際に実施するかは、外気温と水温の合計や暑さ指数により判断していくが、そこでの違いは出てくると考えている。

委員

予備教室に扉がないように見えるが取っ払っている感じなのか。

子ども教育施設課長

予備教室は児童が増加した場合の教室とする想定をしている。現時点では、このような仕切らない状況を想定しているが、児童が増えて普通教室が必要といったときには、仕切りをつくるという想定である。

委員長

ほかに何かあるか。

委員

地下スペースを有効に使って空間を創出してくれている点に感謝している。また、職員更衣室の位置が以前は地下だったが、現在は職員室のある1階にあり、職員としては使いやすくなつたと感じている。また、1階のオープンスペースはキッズ・プラザや学習面での活用、災害時の炊き出し、朝の子ども見守り活動(7:30~8:15)にも活用できるかもしれない。

北原オーブンスペースは非常に有効だと感じている。多目的室とオーブンスペースは仕切りを外すと一体的に使える設計になっていると理解している。

プールの課題と質問について夏休みのプール活動は10コマ予定していたが、暑さ指数や水温・気温の条件により1コマしか実施できなかつた。水温が高くなると冷却が難しいか。

子ども教育施設課

屋外で水を冷却するという想定の装置は、区内でも屋内の施設でもないし、聞いたことがない。今日、設計事務所も来ているが、大容量の水を冷やすというような装置は今のところない。

委員長

ほかにあるか。

○資料3 北原小学校の樹木について

子ども教育施設課長

次の項目について説明をする。資料は、北原小学校の解体工事および新築工事に伴う既存樹木と新植樹木についての資料となる。

学校敷地の周りにフェンスを設置していくほか、校庭側には防球ネットのフェンスを設置していくことになる。

現在の北原小学校の樹木は全ての樹木において、校舎の解体工事、新築工事、フェンスの設置工事並びに校庭整備工事の範囲と干渉しているため、樹木を残し続けることができかねる状況となっている。そのため、現在の樹木は工事に伴い伐採し、新校舎には新たに樹木を植樹していくと考えている。説明は以上である。

委員

祭りで使う配電盤のポール（南門）が立っており。ギリギリまで撤去しないでほしい。

子ども教育施設課長

北原小学校工事自体は令和9年度から始まるので、先んじて撤去することは現時点では考えていない。

委員長

ほかにあるか。

委員

校庭にどれぐらい木が植えられるのか。遊具の配置についても次回の説明か。

子ども教育施設課長

遊具は鉄棒、登り棒、うんてい、ジャングルジムを想定している。これらは安全な領域を確保した上で設置される。砂場も設置予定。中野区の新校舎整備における標準的な考え方に基づいており、北原小学校もその方針に沿って設置する。

今後の説明会について、遊具や樹木に関する詳細は現在設計中のため、改築推進委員会では原則として議題にはならない可能性がある。ただし、秋に地域説明会を開催予定。この説明会は関心のある方が自由に参加でき、質問も可能である。設計の検討結果を理由とともに説明する場となる。今回の説明は、地域説明会に向けた前段階としての情報提供であり、特に樹木に関する考え方の紹介を目的としている。

委員長

ほかにあるか。

委員

一部、桜は伐採だと思うが可能であれば桜を植えていただきたく、それができるように遊具の配置とかも調整していただきたい。

子ども教育施設課長

校庭にある桜については、樹木医による診断（外観+機器診断）を実施済みである。診断の結果、空洞率が高く、極めて危険な状態であることが判明している。学校側でも注意喚起の案内を設置して対応中である。伐採は8月8日から開始予定。

区全体での対応として北原小に限らず、中野区内の小中学校・幼稚園の樹木約3,700本を一斉診断している。そのうち約2%（74本）が危険と判断され、順次伐採対応中。北原小ではそのうち2本が該当している。新校舎に植える樹種は未定である。北原小学校が桜を大切にしている文化（校旗・校章にも桜）を尊重し、桜の植樹も検討する。入学式・卒業式などで写真を撮る文化も継承できるよう場所を見定めて桜の配置を検討していく方針である。

委員

そのほうがいいと思います。

委員長

ほかにあるか。

委員

近年の猛暑により、運動会などのイベントで熱中症の心配がある。現在は桜の木陰や教室に避難するなどの対応をしている。桜のような大きな木をすぐに植えるのは難しいが、高いフェンスから日除け（シェードなど）を張るような工夫は可能か。イベント時の暑さ対策として、木陰の代替になるような設備があると良いのではないか。

子ども教育施設課長

新校舎のスタート時点では、大きな樹木による木陰は想定していない。校舎側にはバルコニーが整備されており、バルコニーからはエアコンの効いた室内空間へすぐアクセス可能。これにより、暑さを避けるための屋内避難がしやすい環境が整っていると考える。イベント時の対応方針としては木陰が育つまでの間は、物理的なテントを活用して日除けを確保する運用をしていただきたい。暑さ対策としては、校舎設備とテントの併用による運用が基本方針となる見込みである。

委員長

ほかにあるか。

委員

新校舎は現校舎よりもかなり広くなる印象（3階建て）で校舎が広くなるのは良いことだと感じている。一方で、校庭は今よりも狭くなることに驚いている。気候変動を考慮し、昨年度は「プールより体育館を」という提案をしたが、今日の話を聞いて、多目的室の活用によって体育館がなくても納得できると感じている。桜は美しく価値があるが、大きな木を植えることでスペースが削られる可能性がある。将来的に桜が大きく育つと校庭の使い方に支障が出る可能性もある。

子ども教育施設課長

校庭の広さについて資料を見ると校庭が狭くなったように見えるが、実測では現校庭（2,208 m²）よりも新校庭（約2,300 m²）の方が広い。現校舎の図面にプールが描かれていないため、視覚的に狭く見えてしまっている。また、桜の樹種と配置について桜の中には、ソメイヨシノのように大木になり寿命が50～60年程度の種類もある。一方で、そういったタイプではない桜も存在する。桜を大切にしたいという思いと、校庭を広く有効に使いたいという思いの両方を尊重しながら設計を進めていきたい。桜の樹種や配置はまだ確定ではなく、複数の提案や可能性を検討中。今日いただいた意見も踏まえ、今後の設計案に反映していく予定。完成した案は、ぜひ地域の皆さんにご覧いただきたい。

委員長

ほかにあるか。

子ども教育施設課長

今秋に新校舎の設計の説明会というものを予定しており、中野区報やホームページ、学校を通じたお知らせ等で開催日等の詳細は報告する予定。

委員長

樹木を植えるのは全部苗木からの予定か。

子ども教育施設課長

それぞれのサイズの樹種があるので、それを完全に苗木というもので全てをスタートするというわけではなくて、一定程度育った状態のものを想定している。何十年かけて育ってきたサイズのものが最初に植えられるということはない。

委員長

桜は植えて咲くまでに何年たつのか。

子ども教育施設課長

いろいろな樹種があるため、一概に申し上げられない。

委員長

何もなければ、本日の改築推進委員会は、これをもって終了する。